

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 1 年目)

## 1. 研究課題

『文史通義』研究

A study on Wenshi tongyi

## 2. 研究代表者氏名

古勝隆一

Ryuichi Kogachi

## 3. 研究期間

2015 年 04 月 - 2018 年 03 月 (1 年度目)

## 4. 研究目的

章学誠 (1738-1801) 『文史通義』は、中国文明における文献と史学の意味を根本からとらえ直す偉大な著作であり、文献実証主義的を越えて、さまざまな方法論に基づく読みが可能な文献である。本書の遠大なる構想を解明するため、文献学・史学・文学・思想史など、多角的な面から検討を加える会読を行う。本研究班ではこの『文史通義』内篇に詳細な訳注を加え、本書を十全に読解することを目的とする(外篇については、内容の選定が難しいことと、分量的な問題を考慮して、この研究計画では訳注を行わない)。訳注稿は『東方学報』京都に分載する予定である。

Zhang Xuecheng (1738–1801) was an eminent Qing Dynasty historian especially famous for his historical theory expressed in his magnum opus, *On Literature and History*. The book radically clarifies the meaning of writings and historiography in the Chinese culture from the ancient time to the Qing dynasty, and it should be read more closely and intentionally using various disciplines. To clarify the framework of *On Literature and History*, we would employ a multifaceted approach and thoroughly translate its Inner part into Japanese with precise annotations. The series of translations will be published in the *Tōhō gakuhō*, Kyoto.

## 5. 本年度の研究実施状況

本年度は 4 月 21 日に最初の研究班を開催して以来、おおむね一ヶ月に 2 回のペースで『文史通義』の会読を実施することができた。あらかじめ担当者を決めて、会の数日前に訳注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したた

め、研究班では効率的に議論することができたものとする。本研究班では『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、すでに2015年12月1日の研究班において、巻一を訳し終えた。当初予想していた以上に多様な論点が各班員から提出されたため、必ずしも意見の一致しないところも少なからずのこったが、そういった部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。各回の終了後には、訳注稿の改稿をあらためて提出してもらっており、すでに巻一については原稿を用意しており、現在、『東方学報』に投稿するため、原稿整理の段階にある。

## 7. 本年度の研究実施内容

2015-04-21 『文史通義』訳注に関する趣旨説明

発表者 古勝隆一

2015-05-19 『文史通義』巻一「易教上」訳注

『文史通義』巻一「易教上」訳注 発表者 古勝隆一

2015-06-02 『文史通義』巻一「易教中」訳注

『文史通義』巻一「易教中」訳注 発表者 古勝隆一

2015-06-16 『文史通義』巻一「易教下」訳注

『文史通義』巻一「易教下」訳注 発表者 古勝隆一

2015-07-21 『文史通義』巻一「書教上」訳注

『文史通義』巻一「書教上」訳注 発表者 福谷彬 京都大学大学院文学研究科

2015-07-21 『文史通義』巻一「書教中」訳注

『文史通義』巻一「書教中」訳注 発表者 中原佑真 京都大学大学院文学研究科

2015-09-01 『文史通義』巻一「書教下」訳注

『文史通義』巻一「書教下」訳注 発表者 内山直樹 千葉大学

2015-09-15 『文史通義』巻一「詩教下」訳注

『文史通義』巻一「詩教下」訳注 発表者 竹元規人 福岡教育大学

2015-10-06 『文史通義』巻一「詩教上」訳注

『文史通義』巻一「詩教上」訳注 発表者 道坂昭廣 京都大学大学院人間環境学研究科

2015-10-20 『文史通義』巻一「経解上」訳注

『文史通義』巻一「経解上」訳注 発表者 渡辺大 文教大学

2015-11-17 『文史通義』巻一「経解中」訳注

『文史通義』巻一「経解中」訳注 発表者 土口史記

2015-12-01 『文史通義』巻一「経解下」訳注

『文史通義』巻一「経解下」訳注 発表者 廖明飛 京都大学大学院文学研究科

2015-12-01 『文史通義』巻二「原道上」訳注（1）

『文史通義』巻二「原道上」訳注（1） 発表者 岩井茂樹

2016-01-19 『文史通義』巻二「原道上」訳注（2）

『文史通義』卷二「原道上」訳注（2） 発表者 永田知之

2016-02-02 『文史通義』卷二「原道中」訳注

『文史通義』卷二「原道中」訳注 発表者 白石将人 北京大学中文系

2016-02-16 『文史通義』卷二「原道下（1）」訳注

『文史通義』卷二「原道下（1）」訳注 発表者 山口智弘 千葉大学文学部・非常勤

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

「第 11 回 TOKYO 漢籍 SEMINAR」2016 年 3 月 14 日（月）

（京都大学人文科学研究所附属人文情報学研究センター主催）

会場：一橋大学一橋講堂中会議場（千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内）

あわせて 3 本の講演が行われた。

- ・講演「漢籍目録を読む一俯瞰の楽しみ」 古勝隆一
- ・講演「子部書の分類について」 宇佐美文理
- ・講演「目録学の総決算—『四庫全書』をめぐる—」 永田知之

いずれも共同研究会に関連するものであり、講演者 3 名はいずれも本共同研究会の班員である。関連情報の URL は以下の通り。

<http://www.kita.zinbun.kyoto-u.ac.jp/event/tokyoseminar/>

なお、この講演の内容は、2016 年に研文出版から出版される予定である。

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機 関 数	参加人数				延べ人数			
		総計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	総計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者
所内	1	8				64			
学内(法人内)	1	9 (2)	3 (2)	6 (2)	6 (2)	89 (20)	27 (20)	77 (20)	
国立大学	3	3			1	39			
公立大学									
私立大学	2	2 (1)				17 (11)			
大学共同利用機 関法人									
独立行政法人等 公的研究機関									
民間機関									
外国機関	4	4 (1)	1 (1)			10 (3)	9 (3)		
その他									
計	11	26 (4)	4 (3)	6 (2)	7 (2)	219 (34)	36 (23)	77 (20)	

※（ ）内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	10(7)
国際学術誌に掲載された論文数	2(0)

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

13. 次年度の研究実施計画

平成27年度に引き続き、『文史通義』巻二・巻三の訳注を続ける予定である。研究会の開催頻度はおおむね平成27年度に準ずるが、8月と9月については休会する予定なので、回数は今年度よりも若干減る可能性がある。なお、平成27年度同様、毎回の研究班に関し

て議事録を作成する予定である。月に二度程度の研究班を開催する一方で、すでに研究班の討論を経て修正意見が出された原稿を再整理し、『東方学報』への投稿を準備する。『文史通義』内篇巻一については、投稿を完了する予定である。

#### 14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 16回 国内出張旅費 (延べ 30人)	支出予定額 600,000 (円)
	一般旅費	国内出張旅費 (延べ 人)	支出予定額 (円)
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費 (延べ 人)	支出予定額 (円)
	招聘旅費	招待人数 (延べ 0人)	支出予定額 (円)
謝金 (講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (円)
消耗品等経費			支出予定額 (円)
その他			支出予定額 (円)
合計			600,000 円

#### 15. 研究成果公表計画および今後の展開等

完成した『文史通義』内篇の訳注稿については、『東方学報』への投稿を準備している。5回に分けて掲載の予定。